

戦争と原発はつながっている



福島第一原発事故、爆発後の3号機
(提供: TEPCO/アフロ)

劣化ウラン弾と原発はつながっている

アメリカはイラクやアフガンで大量の劣化ウラン弾を使用した。ウランは天然に存在する金属の中で、最も重くて堅いので、銃弾の先にウランを装填すれば、それは「無敵の兵器」となり、戦車や地下壕を貫いた。ではそのウランはどこから来たのか？

オーストラリアやカナダ、アフリカ大陸にはウラン鉱山がある。地下数百mまで穴を掘り、わざわざウランを採掘す

日本では原発と戦争は別々に報道される。でもこの2つは、実はつながっている。戦争と原発の共通点は、①背後に莫大な利権があり、一部の人が甘い汁を吸っていたこと。②両者ともウランを使って地球を汚していること。③そして差別的拡大である。戦争は多くの障がい者を生み出すし、原発は都会が田舎に押しつけた物だ。「戦争と原発はつながって」いて、「大手メディアが報道しない」とで被害が隠されていくのだ。

何のために？

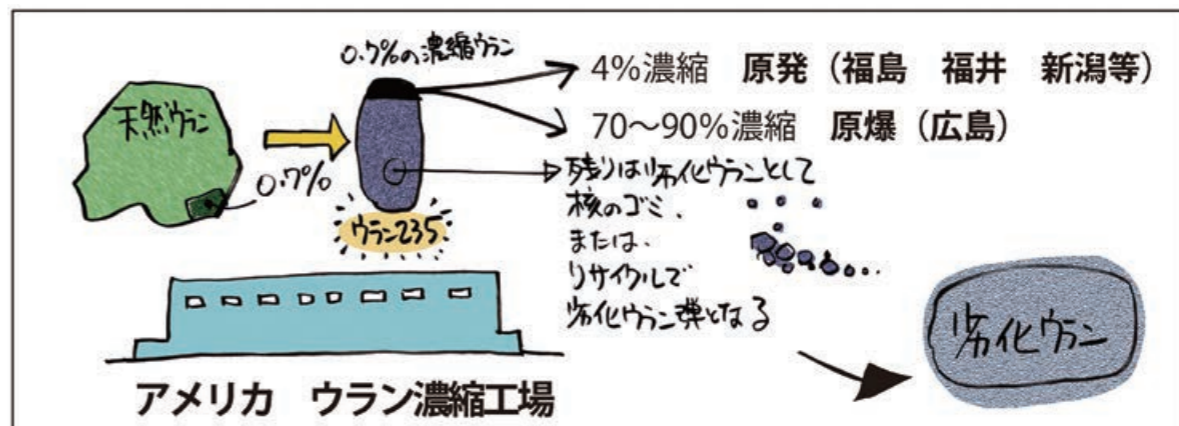
それは①核兵器を作るため②原発で電気をつくるためである。採掘された天然ウランには核分裂するウラン235が、約0.7%しか含まれていない。だから原子炉で天然ウランをそのまま燃やすことはできない。日本の場合、天然ウランはいったんアメリカの工場に送られる。アメリカの工場では「ウラン濃縮作業」が行われる。ウラン235を約4%程度まで濃縮したウランが、日本に戻ってきて、3・11の日も福島で燃えていた。この濃縮作業を続けていって90%程度まで濃縮すれば、それは広島型原爆になる。4%がじわじわ燃えるのが原子力発電

る。何のために？

それは①核兵器を作るため②原発で電気をつくるためである。採掘された天然ウランには核分裂するウラン235が、約0.7%しか含まれていない。だから原子炉で天然ウランをそのまま燃やすことはできない。日本の場合、天然ウランはいったんアメリカの工場に送られる。アメリカの工場では「ウラン濃縮作業」が行われる。ウラン235を約4%程度まで濃縮したウランが、日本に戻ってきて、3・11の日も福島で燃えていた。この濃縮作業を続けていって90%程度まで濃縮すれば、それは広島型原爆になる。4%がじわじわ燃えるのが原子力発電

原子炉は原爆を作るために開発された

第2次世界大戦末期、アメリカでは原爆を作るための「マンハッタン計画」が極秘に進められていた。1942年、オッペンハイマー博士たち約10万人も



原子力潜水艦が先で原爆はその4年後

第2次大戦後、世界は米ソ冷戦体制に突入する。アメリカは①潜る時間が長い②スピードが速い、潜水艦を作ろうとした。それまでのディーゼルエンジンで動く「通常型潜水艦」は燃料を燃やす際に酸素を使うので、普段は海上を航行し、いざという時だけ潜る「パートタイム型潜水艦」だった。これでは敵のレーダーに捕捉されてしまう。敵から発見されない「フルタイム潜水艦」が必要になった。それが酸素を使わない原子力潜水艦だった。

1950年に加圧水型原子炉



原子力潜水艦は浮上せずに数ヶ月も潜ってられる

を開発したアメリカは、54年1月にその原子炉をノーチラス号に搭載し、北極海を横断させる。これは当時のソ連にとっては脅威だった。「レーダーの届かない海底から核爆弾を撃ち込まれたらモスクワは火の海になる」からだ。

その4年後、1958年にアメリカは潜水艦用に開発した原子炉を陸にあげて、世界初の「シッピングポート原子力発電所」をオープンさせた。

つまり、「原子力潜水艦が先で、原爆はその4年後に陸揚げされた」のだ。

異常なオリンピック報道

福島では汚染水漏れが続いていて、労働者は被曝しながら必死の作業を続けている。沖縄の辺野古では、おじい、おばあが必死の座り込みを続けて、新基地押し付けに抵抗している。しかしそんな映像は流れず、記事も発信されない。新聞はスポーツ紙のようになり、テレビはニュースもワイドショーもソチオリンピック一色になった。これは原子力ムラ、アメリカ、日本の財界、軍産複合体などにとっては、とても都合の良い状態だ。人々の関心は薄れていき、やがて福島も沖縄も忘れ去られていく。脱原発や基地建设反対の世論が盛り上がり、やりたいことができる。日本では、脱原発の運動と集団的自衛権行使に反対する平和運動が、まだバラバラにされている。脱原発と平和運動を統一し、大きな運動にしていかなばならない。私たちは今こそ「全てがつながっている」「メディアは肝心なことを伝えない」ことを見抜かねばならない。

(イラストはKAKOさん)



初から戦争のために作られた技術なのだ。

マンハッタン計画

1940年	0.4kgの濃縮ウランがあれば原爆が作れる、という事実を発見。
1942年	オッペンハイマー博士らがロスアラモスで研究を始める。
1943年	オークリッジに、ウラン工場。ハンフォードにプルトニウム生産炉。
1945年	7月16日アラモゴルドで世界初の核実験(プルトニウム型)
1945年	8月6日ヒロシマへ リトルボーイウラン型投下
	8月9日ナガサキへ ファットマンプルトニウム型投下

はウラン型のリトルボーイとプルトニウム型のファットマン、両方の威力を試したかったからだ、と推察する。